

食品に係るリスク認識アンケート調査の結果について

1. 調査の目的

食品に関するリスクコミュニケーションは、国民の食品安全に関する認識を踏まえて行うことが重要であることから、食品に対するリスクの認識（健康への影響に気を付けるべきと考える項目やガンの原因になると考える項目など）について調査を行った。

2. サンプル数及び方法

(1) 一般消費者（インターネット調査）：

全国 10 地域（北海道～九州・沖縄）の 6 世代区分（20 代～70 代以上）のそれぞれについて、男女 30 名ずつ。計 3,600 名

(2) 食品安全の専門家（メール調査）：食品安全委員会専門委員 計 161 名

3. 調査期間：2015 年 2 月 24 日（火）～3 月 10 日（火）

4. 調査結果概要

調査結果について、専門知識の有無による違いに着目して取りまとめた。

(1) 健康への影響に気を付けるべきと考える項目

19 項目を示し、気を付ける必要があると思うものを、その必要性の大きい順に 10 位まで順位を付けてもらった。図 1 に、項目毎の中央値を示した。

病原性微生物やカビ毒に対する反応は、専門家と一般消費者には大きな違いはなかった。

タバコ、過食や偏食、アレルギー、飲酒、輸入食品、健康食品・サプリメントについては、専門家の半数以上がそれぞれ 2 位、4 位、6 位、7 位、8 位、9 位以上と回答しているが、一般消費者は全て 11 位以下である。

一方、食品添加物、食品容器からの溶出物質、ダイオキシンは、専門家の半数以上が 11 位以下と回答したが、一般消費者は、それぞれ、6 位、9 位、9 位以上と回答した。

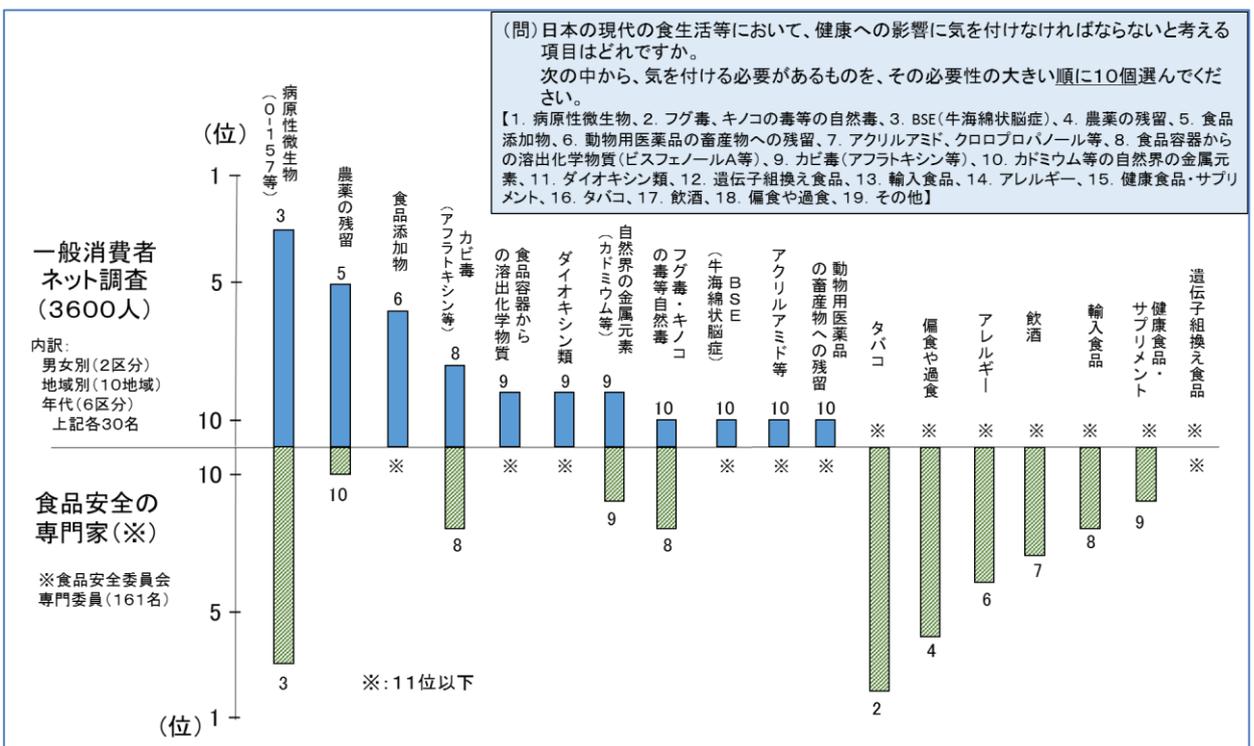


図 1 健康への影響に気を付けるべきと考える項目の順位（中央値）

注：中央値とは、全サンプルを大きい順に並べ替え、ちょうど真ん中のデータである。たとえば、病原性微生物は、一般消費者の3,600人の回答を1位から順番に並べ、ちょうど真ん中の1,800.5人目（1,800人目と1,801人目の平均）の回答が3位である。すなわち、一般消費者の半数以上が1位～3位と回答したことを意味する。

(2) ガンの原因になると考える項目

23項目を示し、ガンの原因になると考えるものを、大きな原因になると考える順に5位まで順位をつけてもらった。

図2に、項目毎に、ガンの原因として1～5位に挙げた人の割合を、一般消費者及び食品安全の専門家のそれぞれについて示した（ただし、専門家のタバコ及び加齢に関連する棒グラフは、スケールを超えたため、途中を波線で省略して表している）。

専門家において、タバコ（90%）、加齢（78%）が突出して多いのに比べ、一般消費者は、タバコ（61%）が1位であることは同じであるが、比較的多様なものをガンの原因と考えている。

食品添加物、農薬の残留、カドミウムについては、一般消費者は、それぞれ42%、29%、20%がガンの原因になると考えているのに対し、専門家でこれらがガンの原因になると考えている人は、いずれも3～5%と少ない割合となっている。

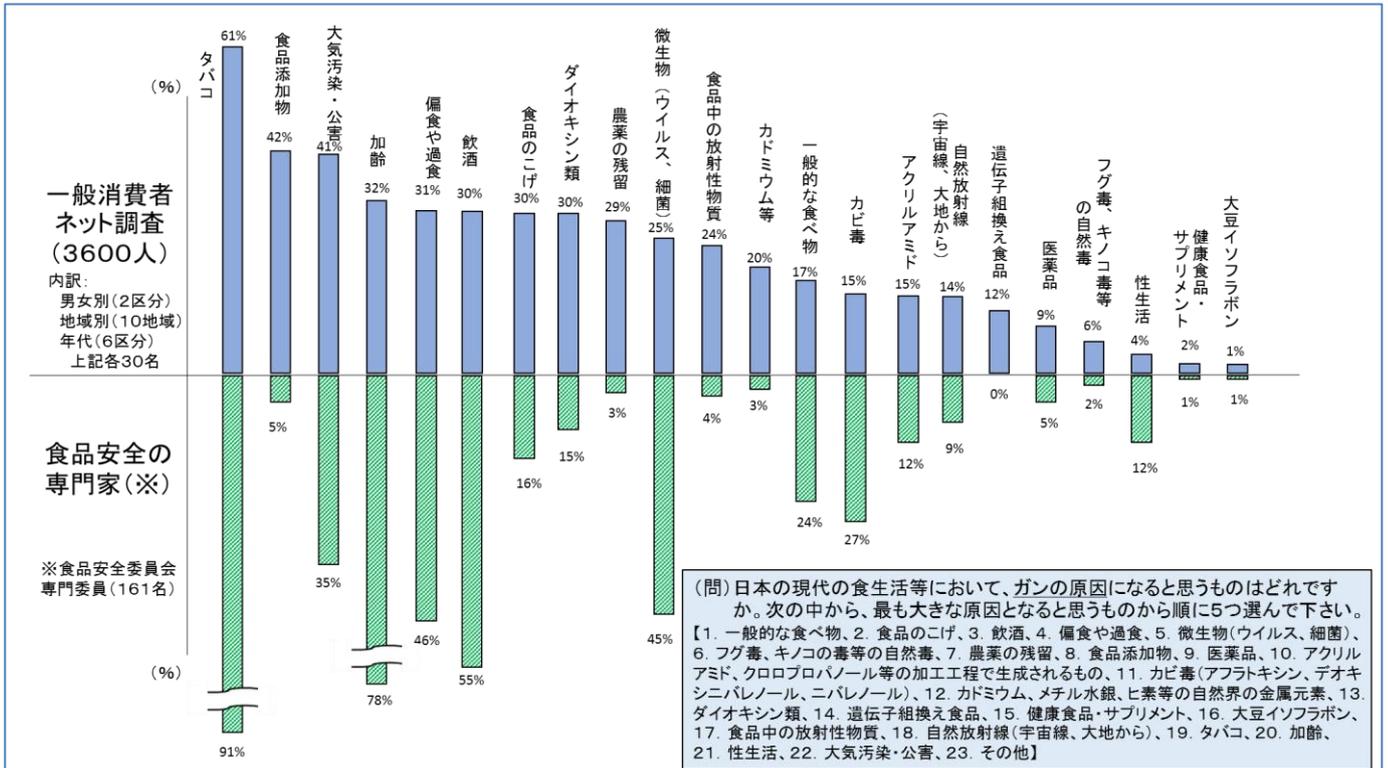


図2 ガンの原因になると考えるものとして1～5位と回答した人の割合

問い合わせ先 内閣府食品安全委員会事務局
 リスクコミュニケーション官 木下
 情報・勧告広報課 武元
 TEL 03-6234-1139
 03-6234-1182